TIRS
Takasaki City University of Economics
Institute of Regional Science
Since 1957

高崎経済大学地域科学研究所　第６回地元学講座

小栗上野介忠順

―敗者の明治維新―

幕末幕政の中枢を担い、幕府の近代国家への途を模索、推進した小栗上野介忠順は、慶応４年（1868）閏４月６日叛逆の汚名を着せられ、退隠先の旧知行所上州権田村で高崎・安中・吉井３藩兵に捕らえられ、東山道総督府の官軍の手により斬首、曝された。何故に小栗忠順は明治維新が始まろうとする夜明けに抹殺されたのか。

正史の明治維新史は朝敵とされた敗者を排除した勝者の官の歴史である。小栗は維新の偉業を顕彰するに際して負の役割、いわば敵役を担わされてきた。敗者小栗に関する第一次史料は抹消されて全くない。ところが、小栗の唯一直筆の日記が数奇な変遷を辿って発見されていた。小栗最期474 日の日記を繙きつつ、波乱の生涯を振り返り、明治維新の捏造された美談の虚偽に迫る。

講師：高橋　敏　氏（国立歴史民俗博物館　名誉教授）

日時：平成３０年１０月１１日（木）
１４時２０分～１５時５０分

場所：高崎経済大学１号館１１１教室
＊入場無料・事前予約不要

《講師プロフィール》　高橋　敏（たかはし　さとし）

1940 年静岡県生まれ。東京教育大学大学院文学研究科修士課程修了。国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学名誉教授。文学博士。

1983 年から 89 年の 7 年間群馬大学教育学部に在職、群馬県各地を学生諸氏とフィールドワークに専念。群馬を離れてからライフワークとして著書にしてきた。赤城山西南麓原之郷村船津伝次平家の寺子屋九十九庵から始まった『近世村落生活文化史序説』（未来社 1990）これに桐生新町織屋吉田清助家に注目した『村の手習塾―家族と子供の発見』・『家族と子供の江戸時代』（朝日新聞社 1995・97）。蚕繁昌の国上州が産んだ江戸のアウトローの筆頭国定忠治関連の三部作『国定忠治の時代』（平凡選書 1990 のちちくま文庫）『国定忠治』（岩波新書 2000）『国定忠治を男にした女侠』（朝日選書 2007）。そして数奇の運命を辿り埋もれたままの「小栗上野介忠順日記」を解読・分析して再評価に挑んだ『小栗上野介忠順と幕末維新―「小栗日記」を読む』（岩波書店 2013）。未だハンセン病者を隔離、差別しなかった薬湯草津温泉の江戸時代史を残したままである。

≪お問合せ先≫　高崎経済大学地域科学研究所
（事務局　研究グループ研究支援チーム）
電話：027-344-6267
E-mail：chiikikagaku@tcue.ac.jp